



# かわい



<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kawai/> (HP 随時更新中!)

## 多様性の中で

校長 窪田 剛久

暖かさ、寒さを繰り返して、着実に季節は春へと向かっています。世間では行動制限のない年末年始を乗り越え、少しずつ日常生活を取り戻してきました。新型コロナウイルスの感染者数も一時に比べるとかなり低いレベルに抑えられ、明るい兆しが見え始めています。川井小学校でも、この冬インフルエンザによる学級閉鎖は経験しましたが、その後ピークは去り、欠席児童も随分と減ってきました。このまま暖かい春を迎え、子ども達が新学年という新しいステージに安心して立てることを、心から願っています。

さて、先日プロ車いすテニスプレーヤーの国枝慎吾選手が引退を発表しました。国枝選手は11歳のとき、母の勧めで車いすテニスを始めました。2003年、国別対抗戦で全勝し、日本チームを優勝に導き、大学時代にアテネパラリンピック初出場。その後、北京パラリンピックでの金メダル獲得を機に、2009年4月にプロ転向。シングルス107連勝の記録を持っています。リオパラリンピック開催年の2016年は怪我などの影響で不振が続きましたが、2018年に3年ぶりに全豪を制し、見事復活を遂げました。東京パラリンピックでは日本代表選手団の主将を務め、男子シングルスで2大会ぶりに金メダルを奪還しました。グランドスラム優勝32回、年間グランドスラム5回という驚異的な偉業を成し遂げています。その国枝選手がこのような言葉を残しています。「車いすでテニスをやっていることが偉いわけじゃない。目が悪ければ眼鏡をかける。僕は足が悪いから車いすに乗る。その状態でスポーツをするしかない。スポーツをしたいというのは、みんなも思うこと。結局、そこに特別なことはないはずと思っていた。」この言葉に、これからの世界を生きていくための、大きなヒントがあると思います。

学習指導要領の改訂に伴い、「個に応じた指導」と言われていたものが「個別最適な学び」と言われるようになりました。「個に応じた指導」は指導者の視点であり、これからは学習者の視点に立った「個別最適な学び」を実現させていくときであるということです。



私達は個に応じて様々な違いをもっています。スポーツが苦手な人もいれば、当然勉強が苦手な人もいます。しかし、違いはそれだけではありません。国枝さんのように障害をもっている人もいれば、LGBTQの人もあります。まさに今、世界は多様性に満ち溢れているのです。今まではその多様な個に対して、指導者側からそれ

れぞれに応じた指導を行うといった価値観で教育は推進されてきました。そこでは指導者が多様性から切り離されています。しかしよく考えれば指導者もその多様性の一部にすぎません。大切なのは多様な個々が主体性をもって、自分に必要なことを学び取っていくことだと、新学習指導要領は示しています。これからの学校は個々の子ども達に、学び取る力をつけさせることが大切であり、そのために最適な環境を整えることが重要だと言っているのです。生涯学習の具現化と言ってもいいでしょう。

国枝選手は車いすでテニスをするのが特別なことと思っはけません。そして、他のマイナースポーツに携わる人たちが皆さん思うように、国枝選手も一選手として「車いすテニスってこんなに面白いんだ、予想以上にエキサイトするスポーツなんだ。どうにかスポーツとして扱ってもらいたい。」と思っがんばっってきただけなのです。しかし多様性の外側にいることで「車いすでテニスをやって偉いね。」という言葉が出てきてしまうのだと思います。

様々なメディアが実施した世論調査の中で、同性婚を法律で認めるべきだと回答した人の割合が70%を超えたとの報道がありました。今、日本には多様性を受け入れる土壌が育ってきています。もうすぐ進級を果たし、新学年という新しいステージに立つかわいっ子達にも、ぜひ多様性を受け入れる感性が育ってほしいと思います。それぞれの子が他人と比べることなく、安心して学校生活を送れるように、自分自身に最適な学びを主体的に求め、わくわく、生き生きと成長していけるように、私達も精いっぱい支援していきたいと思っます。今後ともご理解とご協力のほど、よろしくお願ひいたします。